

1. 社会実験の概要

- 目的
- (1) 公共空間のデザインへの反映
 - 交通：将来形の交通計画の検証
 - 夜間景観：照明による活用促進の検証、大寧寺参道の景観向上の検証
 - 空間活用（道路）：活用に適した設置物のデザインや安全性の検証
 - 空間活用（河川）：川床の柵、床面、パラソルの素材、デザインの検証
 - (2) 公共空間利活用体制・ルール作り
 - 空間活用（道路）：将来形に合わせた道路空間（歩行者空間）の活用の検証
 - 空間活用（河川）：川床の運用（ソフトコンテンツ、維持管理）の検証
 - 旅館連携：旅館とコンテンツとの連携宿泊プランの検証
 - (3) ソフトコンテンツの事業性の検証（飲食・物販・アクティビティ等）
 - 事業者関連：ブランディングとしての飲食メニューの開発・検証、新規の温泉街活用プログラムの検証、定期的な催しの検証
- 実施スケジュール
- 2018年9月1日(土)～30日(日) ※コア期間はおとずれリバーフェスタ2018として9月15～17日(土・日・祝)で実施
- 体制 主催：湯本まちづくり協議会（みらい検討部会） / 共催：長門市 / 運営協力：有限会社ハートビートプラン

2. 社会実験の検証項目と今後の方針

(1)【交通】 ■将来形のエリア交通計画における影響の検証

実施内容 ①右岸道路・曙橋の歩行者化 ②左岸道路に狭窄部を設置 ③国道接続部の交差点線形変更

テーマ1：狭窄部による歩ける温泉街の形成
→社会実験および地元WSの結果より狭窄部を設置する方向で、警察等関係機関と協議を進める。

テーマ2：右岸・曙橋の歩行者専用化による回遊性の向上
→計画案通り右岸側の歩行者空間化を進める。



歩行者専用
・車両通行不可

歩行者専用
・許可車、緊急車両、軽車両（自転車等）通行可

駐車場

星野リゾート事業地

きらきら橋

曙橋

松声橋

千代橋

八千代橋

右岸

左岸

狭さく部

交差点部

歩車共存道路
・歩行者優先、車両対面通行可



(2)【夜間景観】 ■活用空間の利用促進の検証 ■大寧寺参道の景観向上の検証

実施内容 ①民有地に共通の照明の設置 ②公共空間及び出店屋台などの照明演出 ③大寧寺参道の試験的ライトアップ


テーマ1：イベント用電源の不足、今後は電源の常設化と容量規制などで対応
→イベント用の電源の効率的な設置の検討
→イベント出店者への容量制限や調整による対応方法の検討

テーマ2：川床や道路の印象的な演出の確認
→川床ライトアップのための照明設備の整備の実施
→手すりのライトアップは今後仕様も含めて検討

テーマ3：新たなコンテンツ「おとずれキネマ」
→組織体制の強化とトライアルを繰り返し映画上映の可能性をさぐる。

テーマ4：大寧寺参道のライトアップ試行
→実施の可否も含めて検討。実施の場合には光量や灯数は再検討が必要。

テーマ5：建築物を照明オブジェとして活用
→定常的なものとするか、イベント時のものとするかなど実施の可否も含めて検討




(3)【空間活用（道路）】 ■将来形に合わせた道路空間（歩行者空間）の活用の検証 ■活用に適した設置物のデザインや安全性の検証

実施内容 ①飲食、物販の店舗の出店 ②休憩スペースの設置 ③プランターの設置

テーマ1：休憩スペースは需要あり、出店スペースは日常利用を検討
→左岸道路工事完了とともに休憩スペースの設置。管理はオソト協議会で行う。
→出店スペースの設置ではなく、図書コーナーやBBQコーナーなどの活用を検討。

テーマ2：簡単に動かないプランターの必要性、地先管理体制をつくる
→簡単に動かせない重量のある安定した構造とし、路上駐車への抑制にもつなげる。
→オソト協議会にて沿道住民の方々と共に管理体制構築を検討。



(4)【空間活用（河川）】 ■川床の運用（ソフトコンテンツ、維持管理）の検証 ■川床の柵、床面、パラソルの素材、デザインの検証

実施内容 ①川床でのプログラムの実施 ②川床手すりの加工と維持管理

テーマ1：手すり改造と簡易な撤去対応による円滑な日常運用の実現
→手すりは注意報・警報時には収納することで対応を行う。
→川床上の設置物は毎日の撤去は行わず、注意報・警報発令時のみの対応とする。管理は各事業者の責任で行う。

テーマ2：充実した川床プログラムの不足、さらなるアイディアや商品化が必要
→今後恩湯完成後は長門湯守による活用や休憩スペースとしての充実を図る。
→旅館のサービスとして確立させる。

テーマ3：地域のポテンシャルを最大限活用した新たな空間活用や回遊性の実現
→イベント時の河川沿いの継続した使用
→新しく整備される（た）、2か所の雁木広場の積極的なプログラム活用の検討

※河川区域準則特区の指定（2018.10.23）

- ・社会実験結果と検証を経て、河川管理者の山口県が準則特区を指定（県内初）
- ・2018年11月1日より、川床＆置き座の常設化がスタート

→オソト活用協議会による民間主体の設置・運営がスタート
→星野リゾート等新たな川床の設置対応、デザインの質確保など




(5)【旅館連携】 ■旅館とコンテンツとの連携宿泊プランの検証

実施内容 ①川床を活用したサービスの実施 ②リバーフェスタと連動した宿泊プランの企画 ③宿泊者のリバーフェスタへの誘導


テーマ1：当日の旅館宿泊客の外出効果はあり、事前告知やオリジナル浴衣など工夫
→夕方の食事前でも楽しめるプログラムの充実
→外湯との連携など、そぞろ歩きしやすくなる誘導策の検討

テーマ2：宿泊プランに反映できなかった、今後商品化連動を図る
→閑散期にイベントと連動した宿泊プランを企画、検証する。
→宿泊客への事前告知や、HPでの発信などを強化する。





おとずれリバーフェスタ2018 概要報告- 2

- (6)【事業者関連】 ■ブランディングとしての飲食メニューの開発・検証
■新規の温泉街活用プログラムの検証
■定期的な催しの検証

実施内容 ①名物になるような飲食メニューの開発 ②温泉街の立地などを活用したコンテンツの実施 ③今後の定期的なイベント実施のための運営方法の検討	
テーマ1：既存ショップのチャレンジと成果① →定期的なイベントに出店しやすいように、出店方法や手順などをフォーマット化。 →売り子などの人材確保が課題。ちよいサポとの連携など人手を確保していく。	
テーマ2：既存ショップのチャレンジと成果②（新ビジネス試行） →デザインチームが連携し、既存店舗のリノベーションや商品企画のサポート推進。 →学生との継続的な連携も検討する。 →イベント時での出店にてトライアルを行い日常的な店舗にも反映を検討して頂く。	
テーマ3：地元若女将たちによる出店 →大きなイベント時には出店を依頼。 →親子プログラムを企画・運営するチームの組成	

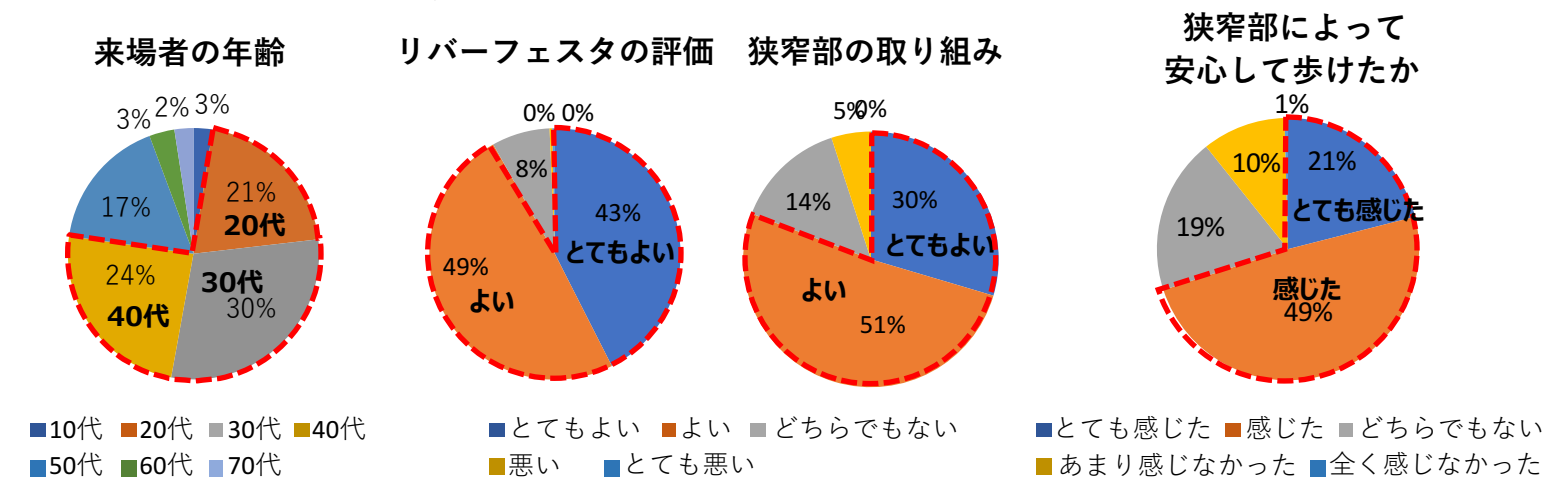
(7)【その他の工夫や課題】

実施内容 ①デザインの統一や出店者のクオリティの確保などをコーディネーターに依頼し実施 ②サポート体制の施行 ③出店者・スタッフ間の交流 ④プロジェクトの情報発信 ⑤外部イベントとの連動	
テーマ1：イベントクオリティを高める工夫 →質を維持するためのコーディネーター（今村氏、上田氏）のような役割を地域で出来る人材の育成や確保 →今までの出店者との交流や今後の情報共有による関係性の構築	 
テーマ2：ちよいサポ（サポートスタッフ）による新しいかわり方 →定期的に関わりが作れるような機会（説明会や交流会等）の創出 →募集の受け皿の構築と湯本のイベント情報等の共有。	
テーマ3：合同打ち上げ、振り返り会&懇親会などのコミュニケーション →地元との定期的な交流の場の設定など、より深いつながりが構築出来るようにする。 →出店者の湯本への愛着を増してもらい、定期的な出店や実店舗への出店につなげる。	
テーマ4：プロジェクト内容を伝えることの大切さ（プロジェクト展示） →イベント実施時での展示や常設展示場所の検討。 →進捗説明セットや持ち帰りできるようなチラシなどの準備	

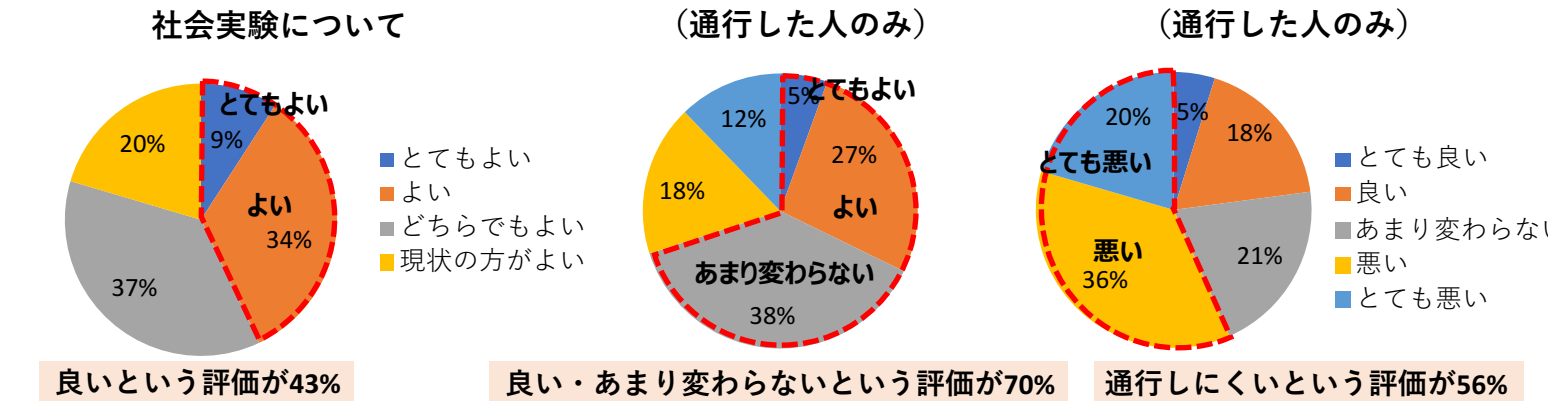
3. 調査結果概要

①来場者アンケート（回答数=301 3日間）

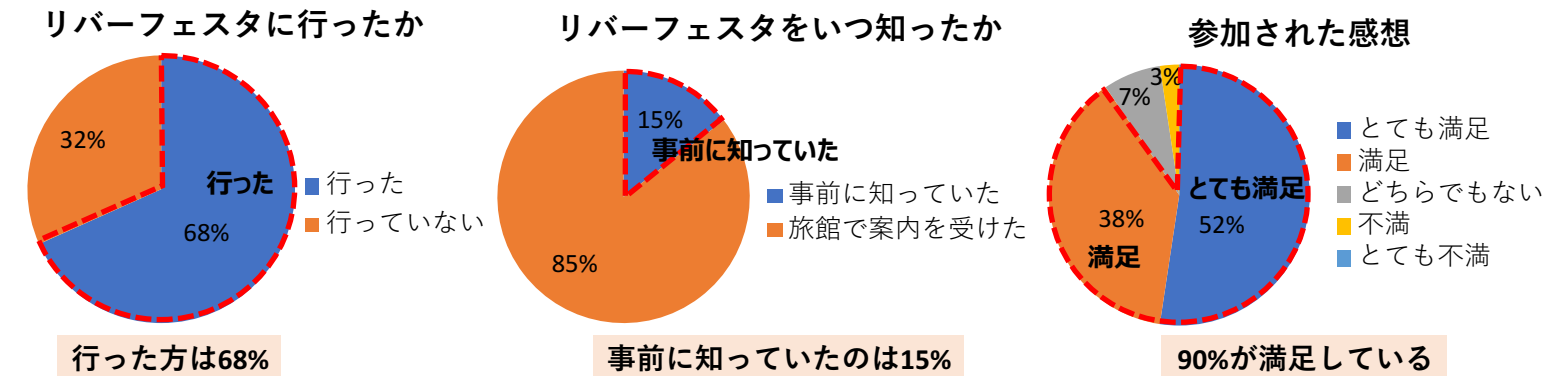
・昨年度同様に20代～40代が多く来場し、9割以上がリバーフェスタを「とてもよい・よい」と評価



②地元アンケート（回答数=171）



③宿泊者アンケート（回答数=127 3日間）



4. 今後の方向性まとめ（案）

■交通計画への反映項目

- ①狭窄部の設置
→設置の方向で警察等関係機関と協議
→設置位置の詳細や区画線、境界の設えなどは今後の協議によって決定

■公共空間のデザインへの反映項目

- ①道路上の設置物
→左岸道路工事完了とともに休憩スペースの設置。管理はオソト協議会で行う。
→簡単に動かせないような重量のある安定した構造のプランターとし、路上駐車抑制にもつなげる。
②夜間景観・電源関係
→川床をライトアップする照明設備の整備
→イベント用の電源を効果的な位置に配置
→それ以外の照明は今後の整備を検討

■公共空間利活用体制・ルール作りへの反映項目

- ①道路上の設置物
→使い方の検討や管理や維持運営はオソト協議会にて検討を行う。
②川床の運営 ※河川管理者との協議済み
→手すりは注意報・警報時には収納することで対応を行う。
→川床上の設置物は毎日の撤去は行わず、注意報・警報発令時のみの対応とする。管理は各事業者の責任で行う。
→旅館や長門湯守による活用プログラムは今後も継続検討、試行を行う。

■ソフトコンテンツやイベント実施への反映項目

- ①旅館との連携
→地域イベントと旅館の宿泊商品との連携強化による閑散期集客の向上を目指す
②既存店舗へのサポート
→旅館含めリノベーションや新規の業態開発などを専門家チームでサポート
→イベント出店時のデザイン面や人的な支援の仕組みを構築
③地元でのイベント運営
→コーディネーター人材の育成や確保の手段の検討
→湯本で催しや情報発信などを手助けしてくれるサポーター組織（仕組み）の確立
④情報発信
→定期的なプロジェクト情報の発信を行い、認知向上とともにファンを増やす。